

「Atlas of Gastroenterologic Endoscopy

by High-Resolution Video-Endoscope

群馬県立がんセンター 長廻 紘
獨協医科大学・病理 藤盛 孝博
虎の門病院・消化器科 星原 芳雄
中目黒消化器クリニック 田淵 正文 編集

帝京大学医学部第3内科

中 村 孝 司

本書は長廻紘、藤盛孝博、星原芳雄、田淵正文の4氏により編集され、更に6氏を加えた10人により執筆された消化管内視鏡アトラスである。書名にもあるように、高解像ビデオエンドスコープによる内視鏡像がA4判154頁いっばいに盛り込まれた大著である。

はじめにその内容から簡単に紹介しよう。全体は5つのパートに分かれている。

1章はIntroductionで、長廻氏の執筆による、高解像スコープの歴史的流れの概説に始まり、わが国で広く用いられている食道の表在癌、進行癌、胃の早期癌、進行癌分類などが外国人向けに紹介され、内視鏡診断の要点がまとめられている。また大腸鏡の部分では、腫瘍や炎症性腸疾患に関する内視鏡診断のまとめと、高解像スコープの意義が要領よく解説されている。

2章以降はアトラスである。125×93mmの大きな画面に微細所見が拡大してとらえられ、圧倒的な迫力ある内視鏡像となっている。

2章は食道編で、星原氏の執筆による68枚の内視鏡像が掲げられ、

表在癌、進行癌、粘膜下腫瘍、食道炎、Barrett食道その他提示されている疾患は多彩であるが、中心は何といっても癌と食道炎で、高解像スコープ所見に加え、きれいなルゴール染色像がそえられて、極めて明瞭に病変が描出されている。

3章は胃編で、藤盛、樋口、柏木3氏の執筆による、62枚の内視鏡像により、早期癌、進行癌、びらん、潰瘍、胃炎など種々の疾患が示されている。なかでも色素撒布による微細観察が求められる、癌や潰瘍辺縁の所見が多数提示され診断力を養うのに役立つ。

4章は十二指腸・小腸編で、星原、河南両氏の執筆による、びらん、潰瘍、早期癌、胃型上皮などの高解像写真が38枚示されている。

5章は大腸編で、田淵、三戸岡、飯塚、楠神4氏の執筆で、腺腫、ポリープ、癌、Crohn病、潰瘍性大腸炎などが掲載されている。全編で最も多い105枚の像がこの部分に割かれており、長廻氏が高解像スコープに最も大きな期待を寄せている分野にふさわしく、色素内視鏡を駆使した、癌の鑑別診断に力を発揮する

微細構造所見が見事に示されている。

このアトラスは、現在のビデオエンドスコープではTVシステムの限界とされる41万画素という高画素数のCCDを用いた高解像スコープによって到達できた現況でのトップレベルの内視鏡像の全世界へ向けての提示である。

長廻氏が序文で述べられているように、内視鏡診断と生検診断の食い違いをできるだけせよめる1つの手段として高解像ビデオスコープが役立つことが期待されており、いわばその長廻氏の期待を証明する証拠物として本アトラスの症例が示されているものと言えよう。また、違った面から言えば各症例のどこをどう読むか細かくは触れられていないので、読影トレーニングのテキストとしても利用できよう。広く一読をお薦めしたい。

● A4 頁170 図7 カラー写真273
表1 1998 定価(本体15,000
円+税) 円400

医学書院 刊(☎03-3817-5657)